

## 令和6(2024)年播種 十勝農試定期作況報告 秋まき小麦

月	作況	事由
令和6年 10月20日	平年並	播種期および出芽期は平年より3日遅かった。播種後の気温が高かったことから、草丈および葉数は平年並で、茎数はやや多く、生育は順調である。 以上のことから、現在の作況は平年並である。
令和7年 5月20日	平年並	根雪始は平年より45日遅く、根雪終は平年より6日遅いため、積雪期間は39日短かった。雪腐病の発生はわずかで、越冬後の生育状況は良好であった。起生期は平年より7日遅く、起生期の茎数は越冬前と同様にやや多い。4月以降の気温は概ね平年並で推移した。平年と比べて、5月20日時点の草丈は長く、茎数は平年並である。 以上のことから、現在の作況は平年並である。
6月20日	やや良	出穂期は平年より4日遅かった。平年と比べて、草丈は長く、茎数は多い。 以上のことから、現在の作況はやや良である。
7月20日	平年並	6月中旬から7月上旬までの気温がかなり高く推移したことから、成熟期は平年より8日早かった。平年と比べて稈長はやや長く、穂長は同程度、穂数はやや多かった。7月4日の降雨により倒伏が“少”程度発生した。 以上のことから、現在の作況は平年並である。
8月20日	平年並	子実重は平年比108%とやや多かったが、穀粒は小粒で、容積重、2.2mm篩上率、千粒重は平年を下回った。 以上のことから、現在の作況は平年並である。
11月20日	平年並	播種期および出芽期は平年より3日遅かった。根雪始は平年より45日遅く、根雪終は平年より6日遅いため、積雪期間は39日短かった。起生期は平年より7日遅く、起生期の茎数は越冬前と同様にやや多かった。4月上旬から5月下旬の気温は平年並であり、出穂期は平年より4日遅かった。6月上旬から7月上旬までの気温がかなり高く推移したことから、成熟期は平年より8日早かった。平年と比べて稈長はやや長く、穂長は同程度、穂数はやや多かった。7月4日の降雨により倒伏が“少”程度発生した。子実重は平年比108%とやや多かったが、容積重、2.2mm篩上率、千粒重は平年を下回った。検査等級は、1等であった。 以上のことから、本年の作況は平年並である。

### 生育データ

品種名		きたほなみ		
項目/年次	本年	平年	比較	
播種期(月日)		9.24	9.21	3
出芽期(月日)		10.1	9.28	3
起生期(月日)		4.8	4.1	7
出穂期(月日)		6.4	5.31	4
成熟期(月日)		7.10	7.18	△ 8
葉数(枚)	10月20日	3.8	3.8	0.0
草丈 (cm)	10月20日	20.5	21.3	△ 0.8
	5月20日	59.3	52.1	7.2
	6月20日	101.2	92.0	9.2
茎数 (本/m <sup>2</sup> )	10月20日	702	599	103
	11月15日	1,864	1,257	607
	起生期	2,109	1,788	321
	5月20日	1,367	1,364	3
	6月20日	839	759	80
成熟期	稈長(cm)	88	81	7
	穂長(cm)	8.5	8.8	△ 0.3
	穂数(本/m <sup>2</sup> )	819	748	71
子実重(kg/10a)		837	778	59
同上対平年比(%)		108	100	8
容積重(g/L)		812	842	△ 30
2.2mm篩上率(%)		86.0	94.8	△ 8.8
千粒重(g)		34.0	39.2	△ 5.2
検査等級		1	1	-

備考1) 平年値は、前7か年中、令和3年収穫(豊作年)、平成30年収穫(凶作年)を除く5年平均。年次は収穫年。

2) △は平年より早、少、短を表す。

### 耕種概要

一区面積 (m <sup>2</sup> )	区制	前作物	畦幅 (cm)	播種日 (月日)	播種量 (粒/m <sup>2</sup> )	
9.6	4	アカクローバ	30	9.24	255	
肥料名	施用量 (kg/10a)	要素量(kg/10a)			備考	
S502	80	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	MgO	
硫安	38	8.0				基肥
硫安	19	4.0				追肥(4/23)
						追肥(5/22)